

V. 特記事項

1. 全学的なリベラルアーツ教育プログラム

本学の建学の精神は実学を基としている。実学とは社会で役立つ技術や能力を身に付けるだけでなく、現実の社会と自分とはどう関わっているのかを考え、その上で自分が今何をすべきであるかを導けることである。疫病の蔓延、国際紛争の激化、地球温暖化、指数関数的に進展する DX 化など、将来の予測が困難なこの時代において、社会で直面する様々な課題に取り組み、社会に貢献できる人材を養成することが本学の実学教育である。本学では、リベラルアーツ教育プログラムとして、「SDGs 実学プログラム」「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を展開している。「SDGs 実学プログラム」は、SDGs のウェディングケーキモデルに沿ってデザインされた概論 1 科目・各論 3 科目・演習 1 科目の全 5 科目で構成され、1 年次前期から 3 年次前期まで履修する。プログラムの到達目標は、学部・学科の枠を超えて SDGs への理解を深め、それぞれの専門性に基づき SDGs の達成に向けて行動することのできる力を養成することである。「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」は、1 年次の通年科目として配置されている「情報リテラシー・DS 概論」で構成されている。プログラムの到達目標はコンピュータの基本的な機能の理解と操作方法、ネットワーク環境を効果的・安全・適正に使用するための知識・技術を修得し、またデータサイエンスや AI に関するリテラシーレベルの知識・技術を確実に理解・修得し、それを適切に使いこなす能力を身に付けることである。本学の特色とも言える両プログラムの修了者には、学修成果を証明するものとして国際標準規格に基づくデジタル証明書であるオープンバッジを付与する予定である。

2. 本学独自のセミナー科目を活用した学修者本位の教育

本学では建学の精神に則り教育目的及び教育目標を定め、それらを踏まえてディプロマ・ポリシーを策定しているが、学生によりわかりやすいようディプロマ・ポリシーを達成することで身に付けることができる力を本学学生が目指す「6 つの力」として学生に明示し、学修成果の可視化に取り組んでいる。学科・コース及び学年毎に定めた「目標とする力」を、ルーブリックや e ポートフォリオなどを活用して「セミナー科目」で総合的に評価し、学生の「振り返り」に供している。入学から卒業まで繰り返すことによって学修成果を定着させるとともに、自分自身を客観視する「メタ認知力」の養成を図っている。

3. 学修成果の可視化

多角的・多面的に学ぶことによって身に付いた学修成果を検証するため、e ポートフォリオやディプロマサプリメントの導入、また、全学生を対象とした「学修行動と学修成果に関する調査」を実施している。この調査は、全学生共通設問と各学科・コース独自設問の二部構成となっており、全学生共通設問の集計結果は、学生の学修行動及び学生生活の実態の把握及び大学の管理・運営の改善のための検討資料として、学科・コース独自設問の集計結果は、授業改善や教育成果の把握など教育改善にむけた検討資料として活用している。これらの集計結果と分析結果を本学ホームページで公表し、ステークホルダーへ向けて透明性のある情報開示を行っている。